

パーソナル： 30 代前半までの歩み (2003 年執筆、2022 年更新)

- 
- ✿ 1971 年冬、福島県会津若松市に生誕。昔は雪深かった。
 - ✿ 幼少の頃は公園でシーソーから転げ落ちて大腿部を骨折したり、灼熱のストーブに手をのせて大やけど（皮膚移植を経験）したりするなどして、両親にとっても心配をかけたと思う。
 - ✿ 高校卒業まで会津で過ごした。中学・高校時代は新聞配達やケンタッキーフライトチキンのアルバイトをし、稼いだお金で約 50 万円のオーディオを買った。オーディオマニアだった。
 - ✿ 中学、高校時代は陸上競技部に所属し、部長を経験した。走り高跳び、110 m 障害、三段跳びなどをした。良い成績は残せなかったが県大会までは進んだ。
 - ✿ 高校は工業高校だった。中学時代の成績が悪いわけではなかったが、幼い頃から電車（特に新幹線）の運転手になりたかったので推薦で工業高校に進学した。しかし高校時代に国鉄が JR に変わり採用がなくなり、新幹線が無理とわかり挫折。電気科で電磁気や強電の知識を学んだ。多くの資格を取得した（ラジオ音響、危険物など）。同級生には変な奴が多かった（自分もそうだったと思う）。
 - ✿ 高 3 で大学受験ラジオ講座（ラ講）で独学で受験勉強をして（かなり頑張った）、山形大学理学部に進学できた。共通一次試験の最後の世代。新幹線運転手は断念したが、もともと宇宙や地球に興味があったので地球科学科に入った。入学当初は地震をやりたかった。
 - ✿ 大学では地学研究会（地研）というサークルに入った。同級生にも上級生にも個性的な人が多かった。1、2 年の頃はよく遊んだ。未成年なのに飲み歩いた。ホンダモンキー（小さなバイク）を買って東北地方一周をした。サークルの合宿や飲み会に励み、天文班の班長も経験した。それらの影響で成績はふるわず、教養部から専門課程に進学するのが半年遅れ、奨学金も一時ストップ。これには参った。専門に進学してからは心機一転、専門の勉強をがんばった。
 - ✿ 卒業研究では山形盆地周辺の岩石の古地磁気調査をテーマに選んだ。指導教官は古地磁気の専門家ではなかったが、つくばの地質調査所で測定するためにいろいろ面倒みていただいたりよく議論にのっていただいたりと、よい先生だった。そのおかげで卒業時に英語の短報を出すことができた。研究分野で著名な先生（神戸大学）を訪問して研究成果を発表することができた。
 - ✿ 卒業研究を進める中で、地質調査のスキルや知識がないために大いに困った。測定データを解釈するにも地質学の知識がないとうまく解釈できない。地質調査所でお世話になっていた方が地質学研究者で、たいへんな刺激を受けた。こうした理由から大学院で地質学を学ぼうと決意し、東北大学大学院理学研究科地学専攻に進学した。
 - ✿ 修士研究では栃木・茨城県境付近（茂木地域）の地質を調査した。空き家を借りてのべ 6 ヶ月間フィールドを歩き回った。地層がつながったときの感動、図学で予想した場所に予想通りの地層を見つけたときの喜びと予想外の地層が出たときの驚き、調査後の温泉が気持ちいいこととビールが美味しいことなど、実に多くのことを学んだ。地質調査だけでなく古地磁気、放射年代測定、微化石処理などいろいろやった。個人学際を目指した。調査当時はちょうどツインリンクもてぎの大規模工事中だった。山や沢が次々と壊された。いい露頭の多くが消滅した。

- ✿ 仙台は住み心地のよい土地だった。都会だが緑が豊かで遊びスポットもたくさんあり、学生時代を過ごすにはいいところだと思う。
- ✿ 指導教官は個性の強い方だった。いろいろな試練を味わったが、いい経験になったと今は思う。こちらの質問には適切に答えてくれる方だった。さまざまな評判があるが、研究者育成の点で結局いい先生だったのだろう。
- ✿ 修士から博士課程（後期課程）に進学し、東北日本の第三紀テクトニクスを地質と古地磁気の両面から見直すテーマに着手した。ポスドク（当時はオーバードクターと言っていた）のきびしい生活を目にしていたので、研究職を得るためにフィールドの合間を縫って論文執筆に精を出した。論文査読を通じて、さまざまな考えを持つ研究者がいることを知った。若気の至りで査読者に喧嘩を吹っかけたこともあった（今振り返ると恥ずかしい）。自分の研究だけを考えられる、実に幸せな時期だった。D2 末までに査読論文を 6 編公表した。
- ✿ D2 の後半に愛知教育大学から公募が出ていることを知った。大学院の先輩が就職していた大学だった。いろいろな方面から情報を集めたところ、地方教育大ではあるが地学が結構大きく、とくに公募している教室（総合科学課程自然科学選修）は理学部を小さくしたような組織だから研究環境は悪くないのではないかという意見があった。ダメもとで応募したら、通った。大学に就職が決まって本当に嬉しかった。
- ✿ 就職時は 26 歳。初めての研究室主宰、初めての授業、初めての学生研究指導など、エキサイティングな日々の中で研究も充実。就職して 2 年後に博士の学位を論文で取得。
- ✿ 結婚、そして妻の出産。人生の重要な節目。
- ✿ 大学の改組により総合科学課程（当時はゼロ免課程と呼ばれた）が廃止され、教員養成に携わるようになった。授業が増え、それに伴い研究に割ける時間が少なくなった。ただ、私の研究室を希望してくれる学生は基本的にまじめな人が多く、その点は救いであった。(2003.12.19)
- ✿ その後いろいろあり、現在に至る。

